

# REPORT & INFORMATION

ほうこく 報告とお知らせ

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務**  
 (日本ユニセフ協会 広報室内)  
 住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
 電話: 03-5789-2016  
 ファックス: 03-5789-2036  
 電子メール: [jcuinfo@unicef.or.jp](mailto:jcuinfo@unicef.or.jp)

## お知らせ Information

### 新着資料 「世界子供白書2004」 (日本語版)

4〜5ページでくわしくお伝えした、「世界子供白書2004」の日本語版ができあがりました。今年のテーマは「女の子の教育」です。おとな向けの資料ですが、興味がある人はぜひ読んでみてください。一冊まで無料で送ります。お申し込みは、ユニセフ子どもネット事務局まで。



### 新刊 絵本「すべての子どもたちのために」

「子どもの権利条約」のなかから大切な権利を選んで、すてきなイラストとともに、むずかしい条約の文章を、子どもたちにわかりやすいように作られた絵本です。全国の本屋で発売中です。

文: キャロライン・キャッスル / 訳: 池田香代子  
 発行: ほるぷ出版 定価: 1365円 (税込み価格)



## Report

### ユニセフ・ハンド・イン・ハンドが行われました!



2003年の12月から、全国2000カ所以上でユニセフ・ハンド・イン・ハンドが行われました。25回目をむかえた今回は「女の子も学校へすべての子どもに教育を」を合言葉に、募金をよびかけました。12月23日の午後には、東京の恵比寿ガーデンプレイスでの中央大会のほか、銀座、新宿、渋谷などで街頭募金が行われました。中央大会では、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんをはじめ、タレントの松村邦洋さんや石田純一さんほか多数の有名人のかたが応援にかけつけてくれました。全国各地域で参加してくれたみなさん、どうもありがとうございました。



### 今年高校を卒業するみなさんへ

2003年度は、ユニセフ子どもネットに423人(2004年2月現在)の子どもたちが参加してくれました。この3月をもって、40人がユニセフ子どもネットを卒業します。卒業生を代表して、兼君からのメッセージが届きました。

ぼくがユニセフ子どもネットに参加したのは高校1年の終わりででした。きっかけは、日本ユニセフ協会ホームページのユニセフ子どもネットのページでした。新聞やテレビの報道、本、ホームページなどに掲載されている子どもたちのようすを見ているうちに、日本に生まれたぼくとはあまりにも差があること知り疑問を持って、このままではいかなって思っていました。子どもネットはぼくの考えと一致していたのですぐに参加しました。

入ってからは学習会に参加したり、インターネット上で話し合いなどをしたりと、たくさんのお話を学べるようになりました。これらの活動はぼくを成長させてくれたと思います。

ぼくたちはほとんどの場合、なんの不自由もなく生活できても幸せです。でもまだまだ苦

しんでいる人がたくさんいることを忘れてはいけません。一人ひとりが、平和や環境を真剣に考えれば、きっといい世界が実現できると思います。

ぼくはこれで卒業ですが、別の場面でがんばって行きたいです。これからのみなさんの活動にもすこすこ期待しています。がんばってくださいね。

これまで、本当にありがとうございました。(兼 聖一郎 18歳)

兼君が中心となって立ちあげたユニセフ子どもネット@九州のページ <http://unicef-cnk.hmc6.net/>



2004年の春から、「ユニセフ子どもネット」は大きく変わります。紙で発行するユニセフ子どもネットニュースは、今回が最終号になります。これからは、電子メールとホームページでみなさんにいろいろなお知らせをしていく予定です。くわしくは同封した資料を読んで、更新の手続きをしてください。

### LETTERS ユニセフ子どもネットニュース NO.7を読んで ネットワーカーからの感想

前号ではアフリカ特集として、9月にひらかれた「ユニセフ・アフリカ・ミーティング」の報告や、アフリカの子どもたちのようすを伝える写真を紹介しました。

- モザンビークのエルマナちゃんの話にショックを受けました。モザンビークで取られた内臓が先進国の移植手術に使われているなんて…。(坂 季幸子 18歳)
  - 小学校の頃から、学校などでよくアフリカなどの子どもたちの話を聞いていて、今思うと、私たちはそういう話に驚かなくなっているのではないかなと思う。何にでも「慣れ」つてあるけれど、こういった本来なら聞き流すことのできないはずの話を、軽く受け流せるようになってしまっているのではないかなと思う。ニュースや文章では、現実味ってないけれど、それなら一体どうすればもっとたくさんの方の心に伝わるのだろうか…。(古川 彩香 16歳)
  - いつも思うのですが、平和な時代のこの日本に生まれて、本当に幸せだと思います。将来みんなが幸せになれるようにする仕事に関わりたいと思います。(大木 茜 17歳)
  - 女性性器切除や、内臓を取って売買しているなど、私の知らなかったことを知ることができました。残酷すぎて、少し涙を流してしまいました…。ユニセフのネットワーカーである私でさえ、まだ知らない世界の過酷な状況がまだまだたくさんあると思います。アフリカミーティングの報告で、あらためてこの世界の過酷な状況を、もっとほかの人びとにも伝えていかなければならない!と思いました。(国広 芽夢 15歳)
  - イラク、イラン、パレスチナ…と中東地域も緊迫した状態ですが、アフリカも負けず勢いづいて感じがします。以前アメリカが関与した、ソマリアもあまり良くない状況が続いていることを思うと、今のイラクもその二の舞になってしまうのでは、と考えてしまいました。(けいこ 15歳)
- ★ネットワーカーからのお知らせ  
 藤原美典さんが学校の授業でホームページを作りました。ぜひ見てくださいね。  
 What We Can Do! - 私たちにできること <http://contest2.thinkquest.jp/tqj2003/60004/>



### 教えて! 兼光さん!

前号でインタビューに答えてくださった、ユニセフ中東・北アフリカ地域事務所副所長 兼光由美子さんから、その後みんなから届いた質問の返事が届きました。



兼光さんの記事を読んで、もっと中東について知りたくなりました。中東に関するニュースを見ると、たくさん民族の名前が出てきますが、中東にはどれくらい民族がいるのですか? (須藤 沙織 17歳)

国の数も多く、民族の数も多く、また民族の定義もいろいろなので、中東全体でどのくらいかという質問には答えることができません。たとえば私の住んでいるヨルダンでは、全体の人口は500万人で、そのうちの98%がアラブ人、残りの2%がサーカシアン(黒海とカスピ海の間にいるコーカサス地方の人)とチェチェン人という構成です。隣の国シリアは、人口が1,700万で、そのうちの90%がアラブ人、そのほか10%はクルド人、アルメニア人、サーカシアン人、トルコ人を構成されています。エジプトの人口は6,500万人ですが、そのうち大半の人が、古代ファラオ人の血を引き継いでいることを誇りに思っています。実際には、リビア、ペルシア、ギリシャ、ローマ、アラブ、トルコから侵略の歴史を繰り返しているため、人びとの顔は様々です。ナポレオン時代にフランス人と混血し金髪の人もいるようです。

中東を旅行して、人びとの顔を見ているうちに中東にいないのではないかと思えるような地域もあれば、ここはアフリカ?と錯覚するところもあります。

なぜ、このようにさまざまな人が中東に存在するのでしょうか。ひとつには、その地理的な条件があると思います。中東は3つの大陸が接するところで、侵略と征服の歴史を繰り返してきました。また奴隷商の歴史もあります。さまざまな人がやってきて、混血していくうちに現在のようないろんな顔のある中東になったのだと思います。そして、この地域は3つの宗教の聖地でもあります。過去には巡礼にきて、そのまま滞在する人も多かったようです。

なぜ中東やアフリカなどの暖かい地域に開発途上国が集まっているのでしょうか? (馬場 友妃 14歳)

例外はありますが、全体の数で言うと南にある途上国の数の方が、北にある途上国の数より圧倒的に多いと思います。

なぜか?それは、19世紀に産業革命と列強主義がヨーロッパに起こったことと関係していると思います。この時代、ヨーロッパの国々は、資源のある国から資源を奪い取り、それを本国で製品にし、その製品を別の国で高く売ったり、奴隷をプランテーションに送って働かせたりする三角貿易を行っていました。ヨーロッパの列強によって、資源の豊かな国々に支配することは大きな利益をもたらしました。資源の豊かさ(農作物など)は気候に関係している場合も多く、列強の植民地への関心が南の暖かく資源の豊かな国々に集中した、と考えれば、開発途上国が南に集中している理由にはなっていないでしょうか?

植民地時代に築かれた構造は現在も続いており、例えば、アフリカのガーナはカカオの原産国で有名ですが、ガーナのチョコレートはあまり見かけません。チョコレートはカカオの木のないスイスやベルギーが有名です。なぜでしょうか。これはガーナはカカオをEU(ヨーロッパ連合)の国々に輸出することはできませんが、カカオからチョコレートを製造してEUに輸出した場合には、高い関税が課されるからです。このような例は、ガーナのチョコレートに限らずたくさんあります。また、ヨーロッパに限らず、日本に輸入されてくるものにも同じような例はたくさんあると思います。

このように、南の国が気候に恵まれ資源が豊かでも、産業が発展しにくい構造的理由があります。そして、この構造を変えてゆかなければならないと思います。